



「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



SING

「引っ込み思案な性格を克服したい」とステージに立った佐藤さん。20代～90代の市民出演者一人ひとりの、のびのびした歌声が会場いっぱいに広がっていました。



WAI WAI

「地域に恩返しをしたい」という宗久さんの想いから、地元で活躍するアーティストや、タガレンジャーと塩竈のりレンジャーも出演! お客さんも手拍子したり拳を上げて盛り上がりました。

いきいきとした音楽を! 市民参加型の歌謡祭!

2月24日(日)、多賀城市文化センターの助成事業で採択された『輝! 第一回「多賀城市民の! 歌謡祭!」』が開催されました。シャンソン歌手の宗久真紀さんを中心に、宗久さんの歌手活動を長年応援してきた方々が集まった実行委員会が主催。今回は、出演者を公募しオーディションで選ばれた23組27人の市民が、全5回のワークショップで磨いてきた歌を披露しました。

発起人の宗久さんは、多賀城市在住のジャズピアニスト中野正敏さんの音楽を広めたいという想いから、市民もいきいきと参加できる方法を模索し、このイベントの実施に至りました。「これからも、喜びの輪をつないでいけるようなコンサートを行ってほしい」と宗久さんは話してくれました。



音楽にとびきりの熱意をもつ宗久さん。「音楽に向きあうことは人生に向きあうこと。良いところを伸ばしていくと、とても良い歌が歌える。人生も同じです」

ヒント from たがさぼPress

たがさぼのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します!

- 2019年2月26日(火)掲載 / データで見る多賀城 ~もし、多賀城が100人の...~
- 2019年2月28日(木)掲載 / 地元の民話・伝説を残し語り継ぐ
- 2019年3月7日(木)掲載 / Let's try English conversation!!

“たがさぼPress”とは?

たがさぼスタッフによるブログ。興味がわいたら「たがさぼPress」へ!
<http://blog.canpan.info/tagasapo/>



“tag”のアンケートのお願い



今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします!
 また、以下のような情報もお待ちしております!

- 自分たちの団体を取材してほしい
- ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
- こんな話題を取り上げてほしい

たがさぼからのお知らせ

たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

たがさぼ開館10周年記念冊誌

「ここから~もうひとつの多賀城ガイドブック~」が完成しました!

2018年6月1日、たがさぼは開館10周年を迎えました。これを記念して、多賀城で行われている16の取り組みや、記念イベントの参加者など58人が考えた「多賀城の未来をひらくカギ」などを紹介した冊子を制作しました。
 多賀城に転入してきた方も、長く住んでいる方も、多賀城の暮らしが今よりもちょっと楽しくなる、もっと好きになるためのヒント・アイデアが見つかる一冊です。たがさぼをはじめ、市内施設、店舗などで配布しています。ぜひお手に取ってご覧ください。



「自分らしく」生きるあなたに そっと寄り添う 非営利団体 虹の橋

ぼくの「得意」と「苦手」は
なんだろう～？



暮らしの中の「ふつう」って何だと思いませんか？ 最近ニュースなどで目にする機会も多い「発達障がい」。発達障がいがある人や二次障がい、グレーゾーンによって生きづらさを感じている人、その人の家族を支援する「非営利団体 虹の橋」代表の岡崎陽子さんにお話を伺いました。

1 最初はママ友のお茶飲みから

もともと、発達障がいがあるお子さんを持つママ友同士で、子育ての悩みを話す茶話会を定期的に行っていた岡崎さん。当時はうまく福祉サービスを活用できず子育てに苦労しましたが、今ではお子さんは成人し、仕事もしています。

一般的に、成人するまでは活用できるサービスは多いですが、成人後は少なくなってしまうのが現状です。また、子どもが成人した後の親の集いは少なく、悩みを共有・相談できる場所は限られていました。「私は遠回りしたけど、この経験を活かして、今子育てに悩んでいる人を手助けできたらいいな」と、茶話会のママ友3人で活動をスタートさせました。

2 自分の「得意」と「苦手」を知る

現在は月1回程度、子育ての悩みを話せる茶話会や、雑貨やお菓子を作って、持ち帰ることもできるレクリエーションなどを行っています。当事者の方々は体調や気分が波があることが多いため、無理に誘うことはせず、来たい時に来てもらうスタンスでいます。「参加者のためになる気づきのお手伝いをして、何か持ち帰ってもらいたい」と岡崎さん。生きづらさを解消していくためには、まず本人が自分の「得意」や「苦手」を知ることだと言います。得意なことは存分に活かし、苦手なことはどうしたらいいかを一緒に考えていく……本人の苦手を無理に克服しようとするのではなく、環境を少し整えるだけで楽に生きられるようになります。



レクリエーションの様子。ゲームを通して、楽しくルールを学ぶ訓練ができます。

3 「ふつう」ってなに？

二次障がいとは、発達障がいがある直接的な原因ではなく、本人の特性ゆえの言動を見た周りの反応などから、生きづらさを感じてしまうこと。この解消には、周りの人たちの理解が大切です。虹の橋では、当事者がより生きやすい環境を整えていくため、今年から少しずつ啓発活動をはじめました。企業などを対象に、直接出向いて話をしたり研修会を開く予定です。当事者が生きやすくなるために環境を整えることは、実は障がいがない人にとっても効果があることもあります。最初はお子さんのために参加していた親御さんが、「自分自身にもあてはまることもあり、少し整えることで生きやすくなった」と話す方もいるそうです。

暮らしの中の「ふつう」とは何でしょうか？ 自分にとっての「ふつう」は相手にとってはどうでしょう？ どんな工夫をしたら当事者や自分が生きやすくなるか、一緒に考えていくことが大切なのかもしれません。



団体に関わる人の中には、医療に携わる専門家もいます。岡崎さんは「困った時は、いつでも寄り添うので、気軽に声をかけてほしい」と話していました。

団体HPは「虹の橋 多賀城」で検索！

虹の橋 多賀城

検索

団体連絡先:nijinohasi2121@yahoo.co.jp



※写真の一部を加工しています。



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo

たがさぽのツイッターへのフォローをお願いします！



<https://www.tagasapo.org/>

「たがさぽ」のホームページはこちらへアクセス！